

とどけたい あなたののもとに わの愛を グループわ ボランティア活動標語の入選作品が決まる 副理事長 加藤勇治(美・10)

10周年記念事業実施を機に、今後のわの活動指針となる標語を広く会員に募集しましたところ、44名の方から、合計151点の作品の応募がありました。選考審査要領を定め、10周年記念実行委員会の代表者会議で、作者名を伏せて厳正審査の結果、下記の通り最優秀作(1点)優秀作(2点)佳作(5点)が決定いたしました。

ボランティアに対する“熱い思い”を込めた力作が多い中、これからのグループわのキャッチフレーズとして採用されました最優秀作は「わの愛」という短い言葉の中に、ボランティア活動にたずさわる会員個人とわという団体双方の“熱い思い”が端的に表現されている点が評価されました。標語募集に際し、多数応募いただきありがとうございます。

【最優秀作】

「とどけたい あなたの
もとへ わの愛を」
中沢 千枝子(音・6期)

【優秀作】

「ボランティア やってよかった
あの笑顔」
加藤 勇治(美・10期)
「経験と知識が“わ”となり
他のために」
飯井 冴子(一般)

【佳作】

「わが結び あなたの笑顔
わたしの元気」
川本 清正(食・10期)
「ボランティア 出来るしあわせ
明日もまた」
泉田 政子(音・2期)
「“わ”になって 新たな生き甲斐
ボランティア」
西田 敏之(生・9期)
「世のために 築け人の和
ボランティアの輪」
藤森 淳二(国・9期)
「明日のため 今日仲間と
ボランティア」
前田 仁子(福・11期)

皇居の清掃奉仕10年

音4 - 福江田 正子

神戸シルバーカレッジ皇居奉仕団は、ことしも4月9日からグループわの会員を含む34名が参加しました。平成10年から毎年、皇居清掃奉仕の参加を続け、ことしで10年を迎えました。

清掃奉仕は皇居内が3日間、赤坂御苑1日の計4日間でした。作業内容は草引きですが、芝生内ではピンセットを使って雑草を引き抜きます。また落ち葉などは竹箒、ガンジキを使って集める作業です。

清掃の途中に天皇・皇后両陛下、皇太子殿下がお出ましになり、作業中の私たちに会釈を賜り、一同感激のひとときでした。

奉仕終了後はNHKで歌謡コンサート、国会議事堂を見学したり、浅草観音、靖国神社に参拝しました。帰郷後、今井学長を訪ねて10年間の皇居奉仕を報告し、永年にわたる奉仕

活動の激励を受けました。平成10年に吉田正三さん(音文3期)と江田で奉仕団を立ち上げ、この間、参加者が少ない年もありましたが、知人などに参加を呼びかけて続ける事が出来ました。



皇居清掃のシルバーカレッジの奉仕団

今回の奉仕団には、私たちのグループリハ・きずな18名が中心でした。奉仕団の10年の歩みを記録として残すこととし、記念誌の発刊する事にしました。兵庫県知事、神戸市長、今井学長から祝辞を頂きました。この記念誌をシルバーカレッジの図書館に寄贈していますので、ご一読下されれば幸いです。

美工6期一同から寄付金

7月6日現在、いまだに後任の世話役の名乗りをあげる人が居りません。2名の方から「解散」して会費残額をグループわに寄付してはどうかの意見があり、私も同感しました。会費残額16,165円にプラスアルファをして計2万円をグループわに寄付します。どうぞ有効にご活用ください。平成19年7月6日

代表 黒田 弘一

寄付金を頂戴しました。ありがとうございました。グループわ

編集後記

グループわの創立10周年の記念の年に、わの活動に参加し情報誌を担当することになり、中央・灘・長田・北の各区会にも伺い、また長坂小学校の日本伝統文化講座も見学させて頂きました。取材、執筆となると、作文は最も不得手の筆者が、それぞれの会場の雰囲気をごどのようにお伝えしたらよいのかと試行錯誤しています。幸いに前任の西阪編集長が、10周年記念誌編集で頑張っておられるので、色々ご指導を頂いていますが、新米記者は右往左往するばかりで、原稿依頼の方法、その他段取りも悪く、本号は10面を仕上げるのがやっとでした。

結果的に編集で、各面への振り分け、レイアウトなど、後は、校正、印刷すればよいところまでの制作を、西阪さんに全部お任せになってしまい、初仕事は情けないスタートとなりました。投稿を頂いた皆さんはじめ、役員の方々には大変お世話になりました。次号発行までには、もう少しましな紙面づくりが出来るよう学習しますので、皆さんの応援をよろしく願います。(M, H)

お知らせ

わ本部事務局は

8月10日(金)から

8月16日(木)までの間

夏休みをいただき、閉局致します
ますので、よろしく願い申し上げます